

巻頭言

財団法人医療経済研究機構会長
館 龍 一 郎

二十一世紀を眼前に世界が大きな変革を迎え、政治・経済はもとより人びとの考え方も大きく変わろうとしている。日本もその例外ではない。医療についても「物的・人的資源が乏しく、技術の水準も低かった時代」にこれをいかに効率的でしかも公平に配分するかを基本として築かれた医療体制から「物の豊かさに代わって心の豊かさ」が求められる時代への変化にいかに対応するかが求められているのである。この意味で、現代は、医療体制、さらに広く社会保障制度の在り方そのものが大きく問い直されている時代であるといっておよいであろう。

このような時期に医療経済研究機構の機関誌『医療経済研究』が創刊される意義は極めて大きい。

経済学の始祖と呼ばれるアダム・スミスはその著「国富論」のなかでローマ時代以来社会的地位を低く押さえられてきた医師や法律家について、社会の人びとが健康や生命・財産を安心して託するためには、彼らに信託するにふさわしい社会的地位や報酬を与えなければならないことを極めて明確に指摘するとともに、報酬不足を補う社会的な評価の役割等にも言及している。「国富論」の出版から二百十余年、最近では情報の経済学や不確実性の経済分析が進み、医療経済学が急速な進展を見せているが、日本では、比較的早くから社会保険制度が普及したこともあって、主として財政の問題とされ、極端ないい方をすれば、この分野の研究は、スミスを超えることごく僅かにとどまってきたのである。しかし、人口の高齢化や財政負担、ニーズの多様化、医療技術の進歩は、保険を含む広い視野と新しい分析手法による研究を不可欠としている。『医療経済研究』が、これらの要請に答え、新しい情報の発信源となり、また研究発表・交流の場として育っていくことを心から念願して止まない。